

水産業界をリードする情報誌

日刊  
速報

# 水産タイムズ

THE SUISAN TIMES

発行所 株式会社 水産タイムズ社

編集発行人 大場 隆広

〒108-0014 東京都港区芝5-9-6

TEL03(3456)1411 FAX03(3456)1416

ホームページ <http://www.suisantimes.co.jp/>

e-mail suisan@suisantimes.co.jp

日刊(但し土・日曜・祝祭日休刊)

購読料 1カ月 5,280円(税別 4,800円)

6カ月31,680円(税別28,800円)



Smiles for All.  
すべては、笑顔のために。



東洋水産

2026年(令和8年)

1月27日(火) 第14671号

## 黒潮大蛇行終息するも水揚げは過去最低

J A F I Cが2025年の漁海況を公表

漁業情報サービスセンター(J A F I C)は、2025年(1~12月)の日本近海の漁海況の特徴について26日公表した。

海況については、2017年8月に始まった黒潮大蛇行が2025年4月に終息。これに先立ち黒潮続流の顕著な北偏も解消し、常磐~道東の多くの海域で水温が低下した。一方、夏季は猛暑が続き、日本周辺の海面水温はほぼ全域で近年(2011~2020年)より高めで推移した。

全国主要港(108港)における2025年(1~12月)の水揚量は前年比94%の161万6000tで、調査開始した2010年以降で過去最低を更新した。平均価格は前年比101%の256円/kg。水揚量の減少などが影響し、最も魚価が高かった前年(252円)を上回った。

全体としては、日本近海の主要魚介類の水揚量の減少傾向が継続した一方、サンマは海況の変化に伴い常磐~道東に来遊したこと、スルメイカは冬季発生系群の資源量が増加したことにより、それぞれ水揚量が前年を上回った。

黒潮大蛇行の終息などの海洋環境変化の影響

が考えられるものとしてJ A F I C水産情報部の渡邊一功部長は「太平洋側におけるマイワシの漁獲量が道東で減少し、銚子近海で増加したことが挙げられる。一方、太平洋側のマサバや、東北海域におけるカツオの不漁は、海況変化よりも資源減少の影響が大きかったと見られる」と説明した。

### マイワシは銚子でまとまと水揚げ

マイワシの全国主要港における2025年の水揚量は55万8000t(太平洋側46.8万t、東シナ海・日本海側9万t)で、前年(58万t)を約2万t下回った。価格は全体として24年・23年を下回った。

太平洋側では銚子港で1~8月にまとまと水揚げが継続し、前年を約7.2万t上回る19.3万tが水揚げされた。一方、道東のまき網漁獲量は15.6万tで前年(20.6万t)を下回った。黒潮大蛇行と黒潮続流の北偏が解消し、常磐~三陸海域の春季の水温が低下。過去2年間にみられたような北上回遊の早期化が抑制されたことなどが要因とみられる。(2ページに続く)

共船、2月にプロ向けクジラ展示会	2
「海の価値を生かし切る取り組み」	
鈴木大臣が海業推進協議会でPR	3
スシロー、豊洲仲卸などとコラボ	3
Nロジ、F L運転競技大会で12名競う	4
うみうまフェア、過去最大規模で開催	4

### 業界人物スポット

東京大学大学院 農学生命科学研究所

特任教授・名誉教授 鈴木 宣弘氏